

モルタル浮きの補修 使用する材料及び器具



及び



SSSボンド #1000 もしくは SSSボンド #700 もしくは SSSボンド #500

SSS 注入ポンプセット もしくは SSS 注入スターターセット

▼ 注入の手順 注入部分にひび割れがある場合は事前処理を必要とします。

1

ウキの打診マーキング ハンマー打診により浮きの範囲を確認し、注入孔をマーキングします。

2

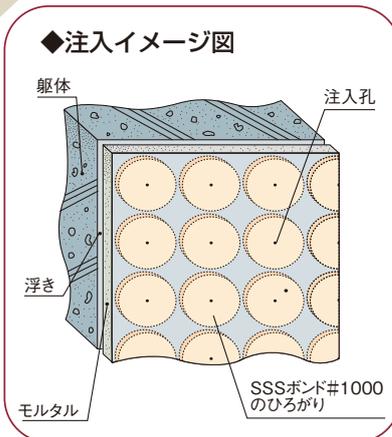
ピンニングの孔は躯体内にさく孔 30mm程度までドリリングします。

3

清掃 ジャンボブロアー、またはコンプレッサーで孔内の切り粉を十分に除去します。

床面

壁面



4

樹脂注入

注入ポンプのノズル先端に小さく切ったウエスを当て、そのまま注入孔に差込んで、ゆっくりと注入します。但し注入は片追いです。

エポキシ樹脂グラウト注入 #700 #500

※状況によりピンニングを併用する場合があります。

※床のグラウト注入には#500をご使用ください。ウキの状況により#700を併用してください。

4

樹脂注入

注入ポンプのノズル先端に小さく切ったウエスを当て、そのまま注入孔に差込んで、ゆっくりと注入します。

#1000

※注入口付アンカーピンも準備しております。

5

ピン注入

注入後、SSSボンドをからめたステンレス補強ピン(SUS304製)をすみやかに挿入します。

エポキシ樹脂パテまたはカチオンタイトによる穴埋

詳しくは別紙施工要領書をご確認ください。

YSひび割れキットA(自動式低圧注入工法)を使用する〈幅0.2~1.0mmまでのひび割れ補修〉

■ コンクリート表面に仕上材が施工してある場合は撤去し、コンクリート面を出してから施工してください。

使用する材料及び器具



1 ひび割れの調査

ひび割れの幅、長さ、壁厚、状態(貫通等)を確認します。ひび割れ幅により注入器具取り付け間隔を決めます。



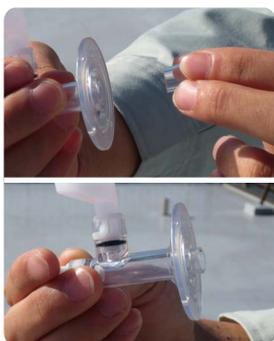
2 清掃

ひび割れ部に沿ってウエス、ワイヤーブラシやディスクサンダーなどで埃、ゴミなどを取り除きます。油分がある場合はシンナー等を用いて拭き取ります。



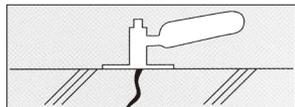
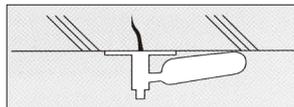
3 台座取り付け準備

同梱している透明な短いホースは、グラウトプラグA台座の筒内部にエバーボンドGP3が入らないようにし注入口を確保する為のものです。穴に差し込んだ際、ホースの突起長さはエバーボンドGP3の厚みより少し長い状態でセットします。



4 台座取り付け

エバーボンドGP3でグラウトプラグAタンク取り付け部を上になるようにひび割れ部に接着固定します。接着剤が硬化しているのを確認してから次工程5の作業に移ります。



5 シール材塗布

ひび割れ部に沿って、エバーボンドGP3でシールします。コンクリートの裏面のひび割れ部にも同様にシールします。台座の廻りからSSSボンドが漏れないようシール材を厚めにかつ丁寧にシールします。接着剤が硬化しているのを確認してから次工程6の作業に移ります。



6 タンク取り付け

接着固定したグラウトプラグAの台座にタンクを取り付けます。



7 注入剤の混練

SSSボンドを良く混練します。

- 0.2~1.0mmの場合は SSSボンド#500を使用します。
- 0.7~1.0mmの場合は SSSボンド#700を使用します。

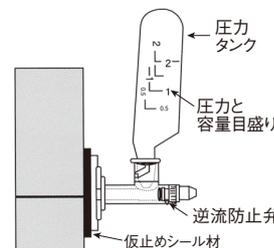


8 注 入

ノズルの先端をグラウトプラグAの注入口に押し付け、タンクが目盛1.5までゆっくりと充填します。タンクが空になったら再び注入してください。下部から上部の注入口へ順々に注入してください。

圧力タンク目盛りと容量・注入圧力の関係

タンク目盛り	容量(ml)	圧力(N/mm ²)
筒内部	3.0	0.00
0.5	10.3	0.05
1.0	13.7	0.10
1.5	15.6	0.15
2.0	17.2	0.20



9 硬化養生

24時間以上できるだけ振動を与えないように静かに養生します。



10 注入器具の除去

皮スキ、サンダー、スクレーパーなどを用いてグラウトプラグAおよびシール材を取り除きます。



11 完了

補修跡を目立たなくする場合は現場に適した化粧材を施してください。



YSひび割れキットB(手動式注入工法)を使用する〈幅1.0mm以上のひび割れ補修〉

■ コンクリート表面に仕上材が施工してある場合は撤去し、コンクリート面を出してから施工してください。

使用する材料及び器具



1 ひび割れの調査

ひび割れの幅、長さ、壁厚、状態(貫通等)を確認します。
ひび割れ幅により注入器具取り付け間隔を決めます。



2 清掃

ひび割れ部に沿ってウエス、ワイヤブラシやディスクサンダーなどで埃、ゴミなどを取り除きます。
油分がある場合はシンナー等を用いて拭き取ります。



3 台座取り付け

エパーボンドGP3でグラウトプラグBをひび割れ部に接着固定します。



4 シール材塗布

ひび割れ部に沿って、エパーボンドGP3でシールします。コンクリートの裏面のひび割れ部にも同様にシールします。台座の廻りからSSSボンドが漏れないようシール材を厚めにかつ丁寧にシールします。接着剤が硬化しているのを確認してから次工程5の作業に移ります。



5 注入剤の混練

SSSボンドを良く混練します。

- 1.0mm前後の場合は SSSボンド#700を使用します。
- 1.0mm以上の場合は SSSボンド#1000を使用します。



6 注入

ノズルの先端をグラウトプラグBの注入口に押し付け、注入してください。
下部から上部の注入口へ順々に注入してください。



7 硬化養生

24時間以上できるだけ振動を与えないように静かに養生します。



8 注入器具の除去

皮スキ、サンダー、スクレーパーなどを用いてグラウトプラグBおよびシール材を取り除きます。



9 完了

補修跡を目立たなくする場合は現場に適した化粧材を施してください。



■SSSボンド使用量

ひび割れ幅	使用量(目安)
0.3~0.5mm程度	100g/m
0.5~0.7mm程度	140g/m
1.0~1.5mm程度	300g/m
1.0~2.0mm程度	400g/m

※ひび割れ深さ150mm